

救急の日 広報げろ 2008.9

救急の日

9月9日は救急の日です。そこで今回は下呂市の救急体制について考えて見ましょう。

◎下呂市における救急車の搬送時間。

下呂市では救急車を呼ぶとおおよそ10分以内には到着し20分以内には病院に着くでしょう。現在のところ下呂市では最近話題になっている病院の受け入れ拒否はまずありません。しかし金山病院では外科医師が少ないために転落事故などの高エネルギー外傷の受け入れが夜間や休日はできないことがあります。このようなときには一刻を争う場合でもやむをえず他病院に搬送せざるをえないことがあります。

◎脳梗塞や心筋梗塞が発生したら

救急患者の中でも脳卒中や心筋梗塞はより迅速な治療を必要とします。脳梗塞は発症から3時間以内に治療を開始できる見込みがあれば現在のところ下呂病院の脳神経外科が受け入れを行っています。

心筋梗塞については、心臓カテーテル検査や血管内治療が必要な場合下呂病院循環器内科で受け入れていますが常時受け入れは困難な状態で下呂市外の病院へ搬送せざるを得ないこともあります。このような場合金山病院では昼間ドクターヘリが飛ばば大学病院へ、ヘリが飛ばない雨天や夜間は陸路救急車で最も近い受け入れ病院へ搬送しています。陸上搬送には病院の医師が添乗しなければならないので医師不足の地域にとって大きな痛手です。このため搬送される側の都合もあるでしょうがドクターヘリが飛ばない限り搬送先は現在のところ大学病院としています。

◎市内で受け入れ可能なけが人の人数は

市内で多人数を巻き込んだ交通事故などが発生したとき市内の病院で受け入れ可能なけが人は何人ほどでしょう。現在下呂市内の病院で同時に全身麻酔で手術が行える人数は医師の数から見ると多くて3人までです。

◎広域災害と緊急ヘリポート

地震などの広域災害が発生すると下呂市の地形からして道路は寸断されるでしょう。市内の病院も無事ではすまないでしょう。そうなるとけが人の緊急搬送はヘリコプターだけが頼りとなります。ヘリコプターで受け入れ可能な病院へ運ぶためにも緊急時に使えるヘリポートを各所に用意しておく必要があります。ヘリコプターは30メートル四方の舗装した平地であれば安全に降りられるといえます。どこからでも、高度な医療が受けられる病院へ早期に搬送できるためにも緊急ヘリポートの増設が望まれます。

◎災害派遣医療チーム（DMAT）

これからは大きな災害が起こった場合国が推進し各地域に組織されつつある災害派遣医療チーム（DMAT）が活動することになります。DMATは災害地にいち早く入り救命を目的としたいわゆる“瓦礫の下の医療”を行いつつ地域の病院に入って緊急手術を行うこともあるでしょう。このようなことを考えるとき災害に強い病院、緊急時に対応できる病院の必要性が痛感されます。

下呂市立金山病院 院長 古田智彦